

としょかん宇治

No. 23

1991年2月1日発行

宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

▽611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20) 1511

冬休み

おたのしみ会開催

昨年十二月の「おはなしかい」は、八十余名の子供たちが参加、楽しいひとときを過ごしました。OHPでスクリーンいっぱいに写し出された「おおはくちょうのそら」(手島圭三郎著) ストーリーテリングで、「あな



のはなし」

大型紙芝居の「ふしぎなたけのこ」(松野正子著)

そして、手品。最後は腹話術で、お人形のトンちゃんとおもしろいおしゃべり。

子供たちは次々と変わる内容に目を輝かせ、一時間の「おはなしかい」もアツというまにおしまい。

この盛りだくさんの内容は、図書館と子供たちに係りのある図書館サークル(宇治児童文庫連絡会・絵本の会・おはなし

たまたまはこ)の四者が共催しておこなったものです。

今後も、楽しい「おはなしかい」を子供たちにプレゼントしていきたいものです。



図書館つたのしいお



神明幼稚園

図書館見学

「おはよう」神明幼稚園児、一〇名の到着です。

市立幼稚園の図書館訪問を受けはじめて四年になります。

図書館の話聞いたあと、自分の好きな本を求めて読書タイム。職員も手助けしながら、園児達はおめあての本探し。見つけてお友達と一緒に読む子、「読んで！」と職員に持ってくる子で、児童書コーナーは活気にあふれます。

やがて、あちこちで読んではい絵本や紙芝居の順番を待ちながら、職員に読んでもらう輪ができ、一時間余りを過ごした園児達の、「さようなら」のあいさつに、本の楽しさを味わってくれたかしら、と思いつつ、「さようなら、またね。」と送り出しました。



平成二年十一月二十九日

図書館利用に 障害のある方々へのサービス

—図書館の仕事シリーズ③—



宇治市中央図書館が開館して、七年目になりました。現在、市民の四分の一の約五万人の方が貸出券をもち、利用されています。

その中には、身体の不自由な方もいらっしやいますが、エレベーターや点字案内板、身障者用トイレなどの設備が整っているので安心して来館されています。

さて、図書館では、墨字（普通文字）を読むことができない視覚障害者、病院などの施設に入ったり、在宅であっても外出が困難な病人や老人など、通常の方法では図書館の利用が不可能あるいは困難な人々に対するサービスを展開していくことは、『住民の学習権』を保障する公共図書館に欠かせない重要な任務だと考えています。

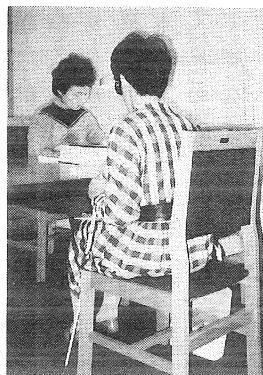
そこで、昭和六一年六月に視覚障害者へのサービスが宇治市社会福祉協議会、宇治リーディングボランティア、宇治市盲人協会の協力のもとでスタートしました。当時二名だった利用者も、今では二十名になり、電話によるテープ図書の出出を主に利用されています。

『テープ図書』は、墨字本をテープに録音したものです。当館では、京都ライトハウスなどから一旦借り受けて、利用者に貸出ししています。借りたい図書を電話で申し込むことができ、貸出・返却が郵送できるという便利なシステムなので、利用が増えてきています。どんなテープ図書があるのかという図書情報は、月に一度、宇治リーディングボランティアの方に録音してもらい、聞いていただくようにしています。なるべく違うテープ図書を聞いていただくために半年に一度、二十〜二十五タイトルを入れ替えるようにしています。

他に郵送で利用できるものに、点字図書があります。『点字図書』は墨字本を点字に訳した図書で指で触れることにより読んでいきます。

また、弱視の人が読みやすいように大きな活字で印刷された『大活字本』というのがあるので、これは子供やお年寄によく読まれています。

さて、図書館の貸出カウンター横の対面朗読室というのがあるのをご存じでしょうか？『対面朗読』とは、視覚障害者が希望される図書館資料を向かいに座った朗読者が目の代わりとなって読んでお聞かせするものです。

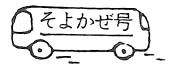


このように昭和六一年に視覚障害者サービスの着実な一歩をふみ出してから五年目を迎えようとして、少しずつですが利用者喜んでいただけるようになっていきます。

今後は、視覚障害者へのサービスの向上に加え、来館できにくい身体の不自由な方に対して、どのようなサービスをしていくかを一つの課題にとりくんでいきたいと考えています。

一人でも多くの方々が本に親しみ生涯学習の場として図書館を大いに利用できるよう、ますます努力していきたいと思っておりますので、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いたします。

はしれ！ そよかせ号



「少し前に予約した本は、まだ返っていませんか？」調べてみると返却期限の過ぎている本

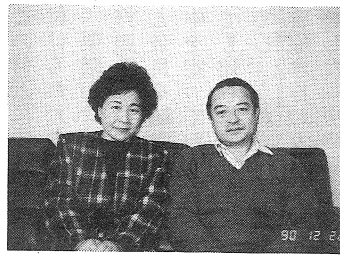
であることがよくあります。「まだ返っていません。今借りている人には連絡しますので、すみませんが、もう少し待ってください。」そよかせ号は一月に一回巡回し、翌月に巡回した時に返却してもらうことになっていますが、なかには何カ月経っても返ってこない本があります。借りている方からすれば、ついつい遅れてしまうのかもしれないませんが、できるだけ翌月巡回の時に返却していただかなければ、その本を読みたいと思っている人に迷惑がかかることとなります。翌月の巡回日に行けない場合は、近くの他の駐車場へ行っていただくか、または中央図書館へ（休館の場合は本だけを入力横の返却ポストへ入れてください。）返してもらっても結構です。また、本をよごしたり、鉛筆などで書き込みをする人があるのも事実です。図書館の本はみんなのもので、事情をご理解いただき、皆様のご協力をよろしくお願いたします。

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第 11 回

久保田 弘さん 夫妻
乃武さん



今回は、宇治半白にお住まいの、久保田弘さんご夫妻にお話を伺いました。

☆いつもご夫婦仲よく来館されていますが、利用はいつごろから。五九年十一月の開館以来ずっと。多い時は週に二回位。今は月に三〜四回という所でしょうか。去年から、一人五冊に変わり、沢山借りられるのが嬉しいですね。☆平日のご利用が多いようですが。平日だとゆっくり本が選べますからね。でも、夏休みのように子供達の利用が多く騒がしかった

り、学生達が勉強していたりというのも、図書館のひとつの姿だと僕は思いますよ。

☆どんな本を借りておられますか。僕は、歴史関係が好きで、小説も歴史小説が多いですね。

☆私は、女流作家の本が多いですね。一冊読んでいいなと思うと、同じ作家の本を次々と借りて読みますので、読書の幅が広がるのが図書館のいい所ですね。

☆本についてのご意見は。

☆開館以来の本はよく揃っていると思います。それ以前の本がちょっと…。古い作品の場合、文庫書棚まで捜してもない時があります。これは本の寿命が短い出版界の影響があるかもしれません。☆絶版書でも、歴史のある図書館に照会して借用できますから、予約制度を気軽にご利用ください。

☆新刊案内をみての予約はよくしてらるんですよ。利用者マナーの問題だと思えますが、汚れた本が多いですね。異物をはさまっていたり、わざとだとしか思えない汚点があったり…。期限を守ることが勿論、借りた本は大切に扱っているのとでも気になります。☆行き届かず申し訳ありません。目に余る本は、返却の折に教えて下さいね。ありがとうございます。

子供にこそ本物を!!

川村たかしさん
講演会開催

恒例の読書週間記念講演会が、十一月十五日に開催されました。講師は梅花女子大学教授で、児童文学作家の川村たかし氏。同氏は奈良県五条市に生れ育ち、地元の小・中・高校の先生をしながら、紀伊半島の人々の生活に取材した作品を発表してきましたが、代表作は「新十津川物語」全十巻。奈良県十津川村の人たちが水害で被害を受けた村を離れ、新天地を求めて北海道に渡り



して子供が読んで感動するだろうか。子供向けだからといって手抜きするのでなく、子供だからこそ本物を書きたい」という著者の言葉でした。北海道へ二十数回も丹念な取材を重ね、第一巻刊行から十一年目に完結したこの巨大な長編文学の背後にある著者の熱き心に触れたひとときでした。この作品はNHK子供パピリオンで、放映が決ったそうです。

カセットブック 好評です



「ほとんどが貸出中です。」「カセットブックも予約できますから、どうぞ。」

もにたくましく生きるさまを描いた作品です。講演は「物語のひみつ」というテーマで、新十津川物語が完成するまでのいろんなエピソードを中心に話をしていただきました。感銘を受けたのは「大人が読んで感動しないものをどう折々 NEWS

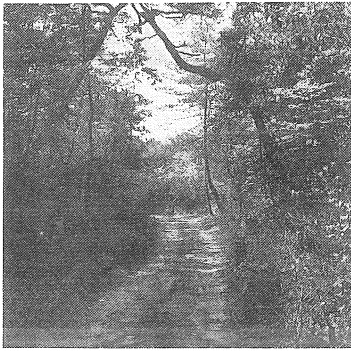
折々 NEWS

郷土のはなし

栗隈山

広野町の南から城陽市にかけてかつて山がありました。この山を総称して栗隈山と呼ばれていました。別に栗子山・久里子山・栗駒山・栗前山とも言われています。おそらく、古代の豪族、栗隈氏がこの付近に居住していたため、名付けられたのでしょうか。

栗隈山は、平安時代には朝廷の狩猟場として知られ、また、京都と奈良を結ぶ奈良街道が、この山中を走っており、交通の要衝としても知られていました。そのためでしようか、山賊がいたようです。菅原孝標の女(一〇〇八?)が著した『更級日記』には、長谷寺



栗隈山道

に詣でるため、この山を通ろうとしたとき

高名の栗駒山にあらずや、日も暮れ方になりぬめり、主たち調度とりおはさうぜよや、といふをいと物おそろしう聞く

(付き添いの者が「ここからは山賊が出るというので有名な栗隈山に入ります。夕暮れにもなってきました。手廻り品をとりまどめて下さい」と仰々しく言うので、何やら恐ろしいと思っけて聞くと記されています。また、要衝であったため、承久元年(一一一三)、奈良興福寺の僧兵と平忠盛らとの戦いなどのように、合戦の場ともなりました。一方、この山は名所としても知られ、多くの和歌に詠まれてきました。

栗駒の、山の桜の、散らざらむ、春のうちには、帰らざらめや 祭主輔親 紅葉せる、栗駒山の、夕影をいざわが宿に うつしもたらむ 大中臣宣

栗隈山には、四季おりおりの美しさがあったのでしよう。この山も今は、ほとんど開発され、住宅地となりましたが、家々の間から見える木々の緑は、昔の面影を留めています。

大中原宣

本をかりるには

(中央図書館の場所)

一 利用案内

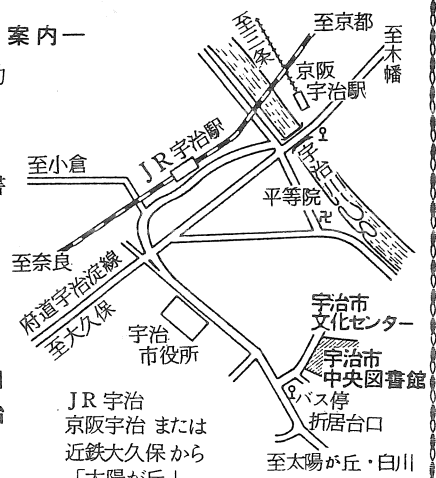
- 市内にお住まいの方、市内に通勤通学されている方などなたでも1人5冊、かりられます。
- 貸出券は、中央図書館・移動図書館の共通券です。

中央図書館

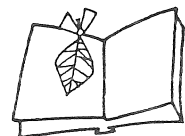
- 貸出期間は、3週間です。
- 開館時間は、9時～17時です。
- 休館日は、毎週月曜日・毎月末日 国民の祝日・年末年始 土曜・日曜もあいています。

移動図書館〔そよかぜ号〕

- 月に市内25カ所を巡回しています。
- 日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧ください。
- 次回巡回日に返却して下さい。



JR 宇治 京阪宇治 または 近鉄大久保 から 「太陽が丘」 行バス乗車 「折居台口」 バス停 下車すぐ



予約・ リクエストもできます。

編集後記

「お父さんやお母さん、読んでくれるかなあ。」 外国絵本を手にした子供の声。十一月に開設した「外国絵本コーナー」、

好評です。邦訳がある本は、表紙裏に出版社等の案内ラベルも。語学の勉強や、原書の雰囲気を楽しんだり、それぞれの目的で利用いただいているようです。二月は、月間貸出が多い月。寒い日々、読書は至福です。